

第3回宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成27年5月11日（月） 15：00 - 17：10

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、鎌田部会長代理、松井部会長代理、下村委員、白地委員、中須賀委員、中村委員、松尾委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 政府側

小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、森宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、頓宮宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官、奥野宇宙戦略室参事官

4. 議事要旨

宇宙政策委員会の構成に一部変更があったことについて、冒頭、参考資料1及び参考資料2に基づき、事務局から説明があった。

(1) 宇宙法制小委員会の審議状況について

資料1に基づき鎌田宇宙法制小委員会座長から説明を行った。説明の後、以下のような意見があった。(: 質問・意見等)

ベンチャー企業は外資から資金を調達することも多く、仮に外資規制を導入する場合は、それによりベンチャー企業の活動を阻害することのないようにするべき。

民間事業者が宇宙活動を行いやすくするという観点は重要だが、それと同時に政府による宇宙活動を阻害することのないようにするという観点も重要である。

弾道ロケットやサブオービタル宇宙飛行等による事業を行う民間事業者が将来出てくる可能性があるため、検討の中で余地として残しておくべき。

(2) 技術試験衛星について

技術試験衛星に関する、これまでの取り組み状況や今後の計画について、総務省から資料2及び資料3に基づき説明が行われた。説明の後、以下のような意見があった。(: 質問・意見等)

技術試験衛星に盛り込む新しい技術については、地上や小型衛星等により事前に実証する等、リスクを低減させる方法を検討するべき。

人工衛星のシステムとしてのみではなく、コンポーネントについても国際競争力を獲得できるようにするべき。

最先端の技術だけではなく、確実にできる技術やコストを低減させる技術にも注力するべき。

技術試験衛星は非常に重要である。技術試験衛星の打ち上げから国際展開に至るロードマップを早急に具体化するとともに、平成 28 年度概算要求に向けて関係省や関係者間で確実かつ具体的に検討を進めるべき。

国際競争力に関する明確な目標が設定されたことは素晴らしく、今後検討を進める中で常に目標を念頭に置いて進めていくべき。

審議の結果、委員からの意見や指摘について、十分に考慮しながら引き続き検討を進めるとともに、審議の内容を、今後の中間とりまとめの審議に活かしていくこととされた

(3) 部品に関する技術戦略の策定等について

部品に関する技術戦略の策定等に関する、これまでの取り組み状況や今後の計画について、経済産業省から資料 4 及び資料 5 に基づき説明が行われた。説明の後、以下のような意見があった。(: 質問・意見等 : 事務局等の回答)

コンポーネント・部品に関し、これまでも自立性の確保の議論はされてきたが、関係者の意思が統一されていなかったことが上手くいかなかった要因であるため、関係省庁や関係企業が一体となり、オールジャパンの体制で取り組むことが重要である。ただし、関係者が多くなることにより、議論のスケジュールが遅れることのないように進めることが重要である。

コンポーネント・部品の点数は多く、重点化を図る必要があるが、ある程度の網羅性を持って検討を進めていきたい。5 年後、10 年後にも意味のある成果が出るように、腰を据えて検討を進めていきたい。

コンポーネント・部品は無数にあり、全てを網羅することには無理がある。国内で生産すべき重要な部品や海外に輸出していくことが出来る部品等に範囲を絞って検討を進めるべきではないか。

審議の結果、委員からの意見や指摘について、十分に考慮しながら引き続き検討を進めるとともに、審議の内容を、今後の中間とりまとめの審議に活かしていくこととされた。

以 上